

ベトナム中部沿岸域における生業構造の実態と課題

—トゥアティエン・フエ省 ビントリ村 ハイズン地区を事例に—

竹岡 佳子

キーワード： ベトナム中部沿岸域，生業構造，稲作，養殖業，漁業

1. 研究の背景と目的

ベトナム中部沿岸域のタムジャンラグーン周辺地域では、1990年代以降のエビ養殖業が盛んになり、かつ近隣都市域が発展したことによって、自然・生活環境が大きな影響を受けてきた。先行研究では、こうした環境変化によって、地域の自然環境の劣化や生業の持続性が失われつつあることが指摘されている。このような課題が発生する原因は、養殖業をはじめ、経済発展を目的とした、長期的視点の喪失した単一的な生業の過度な開発がベトナムの各地で展開され、生業構造の脆弱性が増大してきたことや、貧困世帯に対する行政の支援が地域のニーズや実情と合致していなかったことにある。改めて地域の環境問題と地域支援の在り方を見直すためにも、ラグーン周辺地域に住む人々の生業構造を精緻に調べ、その特徴とニーズを明らかにする必要がある。本研究ではラグーン周辺地域における個々の世帯が営む生業の特徴と課題を把握し、そうした現状に即した問題解決の手法について検討する。

2. 対象地域と研究手法

本研究の対象地は、ベトナム中部沿岸域に位置するトゥアティエン・フエ省フォンチャー県ハイズン村ビントリ地区とする。ベトナム中部沿岸域は洪水常襲地域であり、ハイズン村も過去の洪水によって砂州の決壊や海岸の浸食など様々な被害を受けてきた。当該地域の主な生業は稲作、養殖業、漁業であり、洪水をはじめとした自然災害に長年影響を受けつつも、継続的に営まれてきた背景を持つ。

2015年9月から12月、2016年9月の2回にわたって対象地域の住民に聞き取り調査を実施した。2015年の調査では世帯の基本情報、生業の種類や規模、洪水を中心とした自然災害の影響と適応手段、ビントリ地区周辺の環境変化の状況、地区での生活や生業の問題点について幅広く情報収集を行い、2016年の調査では各世帯の生業や他出者について精緻に状況と課題を把握すべく、ランダムに選択した45世帯で半構造化インタビューを行った。

3. 結果と考察

ビントリ地区は、周辺地域の都市化の影響を受けにくい立地条件にあること、また、貧困世帯が多く存在するにも関わらず、政府からの支援が薄弱であることが分かった。さらに当該地区は、様々な生業と家畜所有を組み合わせる複合的な生業を継続している世帯が一定数あることが確認できた。このような生業形態は、何らかの生業が被害を受けたとしても壊滅的な被害を回避することが可能であり、自然災害の影響を受けやすい当該地区の実情に即した生業形態が存続してきたと評価することができる。しかしながら、周辺地域の都市化や経済発展を鑑みれば、当該地区は経済的に恵まれている状況にあるとはいえない。そのため、複合的な生業形態を維持しつつも、個別の現金収入や自然災害被害の軽減をはかるような支援が必要であるともいえる。

また、聞き取り調査で際立ったのは、世帯員の若年層の多くが村外で就業していることである。こうした他出者が仕送りとして送金する現金は、地区内の世帯にとって重要な収入となっており、現時点では欠かせないものとなっている。しかしながら、こうした状況は将来的に過疎化の問題を引き起こすことは自明であり、当該地区の持続可能性が失われると考えられる。以上のような地域の文脈を精緻に理解したうえで、単純な経済的支援だけのこれまでの在り方を見直し、地域の長所を活かした適切な支援の在り方を考える新たなパラダイムシフトが必要であると考えられる。